

事業計画（アクションプラン）

Ⅲ. 事業計画（アクションプラン）

監督命令（平成30年7月）

「利用が少なく鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区」（いわゆる「黄色」8線区）について、

- 平成31年度及び32年度を「第1期集中改革期間」として、当社と地域の皆様が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、あるべき交通体系について徹底的に検討を行うことが求められました。
- このため、関係の皆様のご理解とご協力を得て、8線区ごとに事業計画（アクションプラン）を策定して取り組みます。

事業計画（アクションプラン）について

- 策定目的 当社と地域の皆様が利用促進や経費節減に一体となって取り組む気運を醸成すること。
- 策定線区 「黄色」8線区
花咲線(釧路～根室間)、釧網線(釧路～網走間)、石北線(旭川～網走間)、宗谷線(旭川～稚内間)、富良野線(旭川～富良野間)、根室線(滝川～新得間)、室蘭線(苫小牧～岩見沢間)、日高線(苫小牧～鶴川間)
- 基本指標 線区別収支、輸送密度
 - ・利用促進や経費節減の取組が反映される「線区別収支」を基本指標とします。
 - ・計画終了後の2020年度において計画開始前の2017年度と同水準を目指します。
 - ・増収要素、減収要素を分解して把握し、「輸送密度」や関連指標とあわせて次の取組を検討する材料とします。
- 取組内容
 - ① 利用促進（「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」の4つの側面から具体的取組を記載）
沿線地域の皆様のご利用を増やしていくための取組／道内外から観光等をご利用いただくための取組／出張などの際に鉄道をご利用いただく取組 等
 - ② 経費節減（ご理解やご協力を得て進める経費節減策について記載）
ご利用の少ない駅や踏切の見直し 等
 - ③ 第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討（すぐに結論は出ないが中長期的視野で検討していくことを記載）
あるべき交通体系についての徹底的な検討 等
- 進め方
 - ・8線区毎に「アクションプラン実行委員会」を設置し、P D C Aサイクルに基づき検証・必要な見直しを行います。
 - ・2020年度末を目処に着実な取組が行われていることを前提として第2期集中改革期間に進みます。

※具体的取組概要は次ページをご覧ください。（当社ホームページにも掲載する予定です）

事業計画（アクションプラン） 具体的取り組み①

線区	基本方針 計画終了後の基本指標 (2017年度と同水準を目指す)	具体的取組概要
		①利用促進 ②経費節減 ③第2期集中改革期間に向けた検討
釧網線 釧路～網走	「観光線区としての線区特性を最大限発揮」 収支状況▲1,497百万円 輸送密度 374人	①WILLERと連携した観光鉄道としての利用促進 北海道ネイチャーパスの販売や観光MaaSの取組 ①道東を周遊する観光商品の造成やキャンペーンの実施 ①観光列車の乗車人員増加の取組 (くしろ湿原ノロッコ号・SL冬の湿原号・流氷物語号) ①官公庁などによる出張時の鉄道利用促進 ②自治体などによる無人駅の利活用や維持管理
花咲線 釧路～根室	「花咲線の魅力を次代につなぐ」 収支状況▲1,110百万円 輸送密度 264人	①花咲線利用促進PR事業の実施 「地球探索鉄道」花咲線の魅力向上や情報発信による認知度向上 ①普通列車を観光列車にする取組 列車の景勝地減速やGPS音声ガイダンスで見どころ案内 ①地域交通網形成計画の実施 ①高齢者等の移動に対する運賃補助 ②自治体による駅前除雪、トイレ清掃
石北線 旭川～網走	「都市間・生活など線区特性を活かす」 収支状況▲4,243百万円 輸送密度 891人	①マイレール運動の提唱 ①行事等で鉄道を利用した際のJR乗車運賃等への助成 ①道内外から石北線をご利用いただくための助成制度の導入 ①特急列車内での特産品の販売 ①地域のお祭りやイベント等の告知などによる鉄道利用促進 ①官公庁、域内事業所等による出張等での鉄道利用の促進 ②地域自治会等による駅待合の管理
宗谷線 旭川～稚内	「都市間・生活・観光の3つの側面を活かす」 収支状況▲5,564百万円 輸送密度 名寄～稚内 352人 旭川～名寄1,452人	①観光列車「風っこ そうや」による観光需要創出(2019年度) ①地域のお祭りやイベント等を活用した鉄道利用促進 ①広報誌等による鉄道利用の呼びかけ ①パーク&トレインの拡大 ①官公庁における出張時の鉄道利用の取組 ②利用の少ない駅の廃止または自治体による無人駅の維持管理に向けた協議 ③貨客混載実施に向けた検討

事業計画（アクションプラン） 具体的取り組み②

線区	基本方針 計画終了後の基本指標 (2017年度と同水準を目指す)	具体的取組概要
		①利用促進 ②経費節減 ③第2期集中改革期間に向けた検討
富良野線 富良野～旭川	「観光の観点からインバウンド対策など強化」 収支状況▲998百万円 輸送密度 1,597人	①観光資源の積極的な活用 鉄道フォトコンテスト、写生コンクールの実施 ①地域のお祭りやイベント等を活用した鉄道利用促進 駅舎内及び駅前広場のイベント活用による賑わいの創出 ①イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行 ②地域自治会等による駅待合の管理 ③駅舎バリアフリーに向けた検討協議
根室線 滝川～新得	滝川～富良野間 「観光線区の特徴を發揮」 収支状況▲1,270百万円・輸送密度428人 富良野～新得間 「生活・観光・物流の3側面からあるべき交通体系 について試行しながら検討を推進」 ※目標値は、あるべき交通体系の検討の中で議論	①PR強化によるフラノラベンダーエクスプレス乗車人員増加 ①フォトコンテスト写真を活用したカレンダー作成・鉄道利用促進 ①北の産業革命「炭鉄港」を活用した鉄道利用促進 ②自治体による乗車券販売業務委託 ③二次交通も含めた、あるべき交通体系の検討開始 ③富良野～新得間における、あるべき交通体系の検討
室蘭線 苫小牧～岩見沢	「地域に根ざした鉄道を目指す」 収支状況▲1,233百万円 輸送密度 439人	①SNS等による利用促進情報の発信 ①自治体による洋式トイレ整備 ①幼児・小学生の遠足・体験学習等鉄道利用促進 ①イベントを活用した鉄道利用の取組 自治体による鉄道利用者限定のお祭り会場利用クーポンの配付 ②自治体による乗車券販売業務委託 ③当社の行き届かない取組に対する自治体側での実施検討
日高線 苫小牧～鷗川	「鉄道を利用する仕掛け作り」 収支状況▲426百万円 輸送密度 449人	①スクールバスから列車通学へのシフト スクールバスを減便/通学定期券一括購入 ①行事等での鉄道利用拡大に向けた呼びかけの実施 ①沿線人気イベントを活用した鉄道利用促進 ②自治体による駅清掃 ③鉄道と他交通機関で連携した地域に最適な公共交通ネットワーク 再構築の検討